

# 宇治支援学校の言葉

ウジシエンガッコウのことば

平成23年度 No.5 12/20発行

京都府立宇治支援学校

〒611-0031 京都府宇治市広野町丸山10  
TEL 0774-41-3701 / FAX 0774-45-2220

## 「 2 学期の成長 」

歳の瀬を迎え、本校も2学期の教育活動を本日をもって終了いたします。

保護者の皆さま、地域の皆さま、関係機関の皆様には、この2学期、宇治支援学校の教育に御支援・御協力をいただきましたことに心より感謝申し上げます。

夏の思い出をたくさん体と心に詰め込んだ子どもたちの2学期は日々の授業と多くの行事によって構成されます。

2学期は日々の授業と節目の行事を縦糸、横糸として学校が「ひとつになる」物語を展開してきました。

夏の日射しが強く残る8月25日に始業式を行い府立学校として夏休みを短縮し、授業日数を増加させました。そして、9月7日～8日には大丸京都店ですべての府立特別支援学校が参加する「ふれあい・心のステーション」に、本校として初参加。1学期から授業で培ってきた力で陶器、ハーブなどの製品を販売しました。休憩コーナーでは、冷たいお茶のサービスを行いました。

こうした機会に生徒たちは、学校の外でどれだけしっかりと「あいさつ」ができ、つくった製品を売りたいという気持ちを表現し、確かな金銭のやりとりができるのか試されました。そして、大きな自信をつかみました。

そのことが、9月23日の校内喫茶店「カフェJOY」の開店へとつながりました。以来、多くの保護者、地域、関係の皆さまが、このカフェを利用いただき好評を得ております。開店にあたっては、PTA本部始め役員の皆さまの御支援・御協力があったことも併せて報告させていただきます。同日開催の「中学部スポーツフェスタ」は、地元広野町喜老会(グラウンドゴルフ)、菟道高校サッカー部、京都アキュラシー協会の皆さまに御参加をお願いし、車いすの子どもたちもグラウンド、体育館でこのフェスタを共に楽しみました。

10月には太陽が丘で「小・中交流集会」があり、宇治市の特別支援学級の子どもたちと本校の子どもたちとの交流が図られました。中学校生徒の代表あいさつで「今年は東北で大きな地震があり悲しかったけれど、うれしいことは宇治支援学校ができたことです。」と述べてくれました。今年度は東北大震災が日本を大きく転換させることになった1年でもありました。本校では今年、宇治市から防災時の避難所としての指定を受けましたが、年度末にかけて、新たに「福祉避難所」としての指定に向け、宇治市と協議を始めます。

10月にも避難訓練を公開実施し、保護者の皆さまに見ていただきました。7月には福島県に京都府が行っている教育活動支援チーム派遣に本校職員も2名現地にはいり、特別な支援を必要とする子どもたちの教育活動を支えました。東北の復興・復旧への思いがいつもあります。

そして、この2学期の大きな節目となる総合文化祭「うじ えん-JOYフェスタ」が11月18・19日に実施されました。2日間のべで448名の来校者で賑わいました。テーマは「友だちと絆を深める。つなげようみんなの夢」でした。子どもたち、保護者、地域の方が参加・活動し、全校内施設を使って「えんJOY」できました。

この2学期にはまた、3つの学部で4つの修学旅行が実施できました。小学部は伊勢、中学部は名古屋、高等部は分かれて北九州と北海道へ旅行しました。訪問教育の生徒が参加できたことも、大きな成果ですが、保護者、医療関係者の献身的な支援があつてのことであり、お礼申し上げます。

12月3日の「高等部スポーツフェスタ」は「ひとつになる」ことを大切にしてきたこの2学期を締めくくるに相応しい行事になりました。校内に設定したランニングコースを高等部の生徒たちが駆け巡りました。肢体不自由クラスの生徒たちの手作り応援を受け、苦しくなると立ち止まりそうになる生徒たちはもう一度気合いを入れ直して走りました。その姿に保護者、地域の皆さんと一緒に声援を送れたことは宇治支援学校にとって大きな喜びでありました。体育館での高等部全員ダンス。保護者をそのダンスの輪の中に誘う子どもたち。「絆」を確かめることができました。

宇治支援学校の2学期はこうして多くのシーンを記憶に刻んできました。まだ、課題があり、改善に取り組んでいかねばなりません。成長する原動力が子どもたち自身の中にあることを忘れず、歩みを進めます。

新年を迎える皆さまに幸多きことをお祈りいたします。

京都府立宇治支援学校

校長 松本 公雄

## 小学部



今学期は、校外学習や修学旅行、「うじ えん-JOYフェスタ」など節目となる行事がたくさんありました。

クラスや学年で取り組んだ校外学習では、子どもたちにあった目的や行先を設定し、充実した活動を行うことができました。

10月には6年生の修学旅行がありました。友だちと一緒に二日間すごし、楽しい思い出がたくさんできたとともに、友だちとのつながりを深めることができました。

11月の「うじ えん-JOYフェスタ」、日常の授業の中でひとりひとりがつけてきた力を様々な場面でしっかりと発揮し、行事を節目に成長する子どもたちの姿を見ることが出来ました。

3学期は、今まで付けてきた力を次の学年や中学部につなげていけるように学習を進めたいと思います。今後とも保護者の方の御支援・御協力をお願いいたします。

## 中学部



2学期は、生徒達や地域の方と「つながり」を深めた学期でした。「スポーツフェスタ」では、地域の方や高校生、特別支援学級の方との交流をし、「うじ えん-JOYフェスタ」にも招待をしました。校外学習、宿泊学習、修学旅行等の行事では、生徒達が地域での学習を通して、マナー、ルールを守ることと同時に仲間を意識して注意をすることや共に行動することが見られています。行事が終わっても普段の学校生活の中で仲間を意識する場面が多く見られています。

またカフェJOYの見学に行き、高等部のお兄さん達のモデルをみて、あいさつや礼を意識してできるようになってきた生徒もいます。

3学期は、仲間とともに「次の学年や高等部への進級・進学」に向けての学習を進めていきます。今後とも保護者の方の御支援・御協力をお願いいたします。

## 高等部



### ◎日々の生活に

2学期はくらし健康コースの宿泊学習に始まり、修学旅行、「うじ えん-JOYフェスタ」、「スポーツフェスタ」と節目となる行事がたくさんありました。その取組の中で感じたことは、生徒の自覚あるふるまいと仲間とつながる、ともに成し遂げる気持ちがあったことです。どれもが日々の学習の中でねらっていることです。

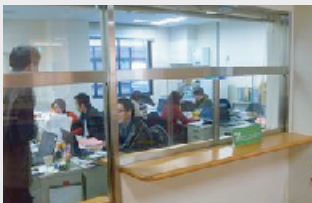
### ◎緊張と挑戦

初めてのことに緊張と不安がついてきます。宇治支援学校ではすべての行事が初めて。しかし、生徒たちは仲間(指導者)とともに挑戦できました。これも大きな自信となり次へ、次へ!

人と気持ちをつなげることは、学校生活でも社会生活にも必要な力の一つです。

このことを言葉だけでなく、みんなで実感できたことに意義を感じています。

## SSC



宇治支援学校には、支援機関として、宇治市・城陽市をサポートする『地域支援センターうじ』と、京都府内全域をサポートする『京都府スーパーサポートセンター(SSC)』の2つがあります。『地域支援センターうじ』への相談依頼はこの2学期で裕に100件を超え、ほぼ毎日のように小学校・中学校等に巡回相談に出かけているところです。

『京都府スーパーサポートセンター(SSC)』には、発達障害に詳しいコーディネーターの他、視覚・聴覚担当者、作業療法士、言語聴覚士が勤務しています。北は丹後から南は南山城地域まで出向いて相談を進めています。

宇治支援学校のお子さんについても、見え方や聞こえ方、感じ方等の視点から、日常の授業に生かせるような相談になるよう取組を進めているところです。1月からは、理学療法士の先生もスタッフに加わっていただけることとなりました。

宇治支援学校も含め府内にお住まいのお子さん達のために、更に頑張っていきたいと思います。

(御相談のある場合には、ひとまず担任に御連絡ください。)